

旭ダンケ 環境対策の取組

ゼロカーボン達成へ

混和材料活用し新製品

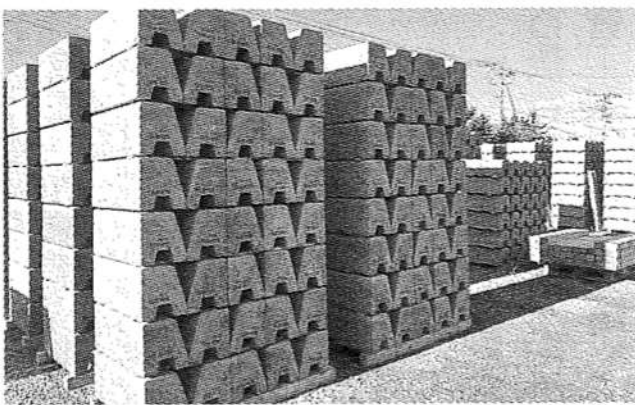
【旭川発】(株)旭ダンケ(旭川の配慮)として環境負荷が川、山下裕久社長)は、脱炭素・低炭素製品の販売などを通じた環境対策の取組に力を入れている。二酸化炭素発生低減に向けた混和材料の活用や、排出量を可視化できるクラウドの導入などを推進。地域に根差した企業として、持続可能な製品・サービスの提供に力を入れている。二酸化炭素発生低減に向けた混和材料の活用や、排出量を可視化できるクラウドの導入などを推進。地域に根差した企業として、持続可能な製品・サービスの提供に力を入れている。

旭川発(株)旭ダンケ(旭川の配慮)として環境負荷が川、山下裕久社長)は、脱炭素・低炭素製品の販売などを通じた環境対策の取組に力を入れている。二酸化炭素発生低減に向けた混和材料の活用や、排出量を可視化できるクラウドの導入などを推進。地域に根差した企業として、持続可能な製品・サービスの提供に力を入れている。

旭川発(株)旭ダンケ(旭川の配慮)として環境負荷が川、山下裕久社長)は、脱炭素・低炭素製品の販売などを通じた環境対策の取組に力を入れている。二酸化炭素発生低減に向けた混和材料の活用や、排出量を可視化できるクラウドの導入などを推進。地域に根差した企業として、持続可能な製品・サービスの提供に力を入れている。

10トンの二酸化炭素削減を実現した。

また、さらなる削減に向けて高炉セメントとフライアッシュを組み合わせることで、さらなる削減に向けて高炉セメントとフライアッシュの混合割合を増やし、削減率45%程度での強度確認を終え、諸物性の試験、全道の対応に向けて設備整備を計画している。

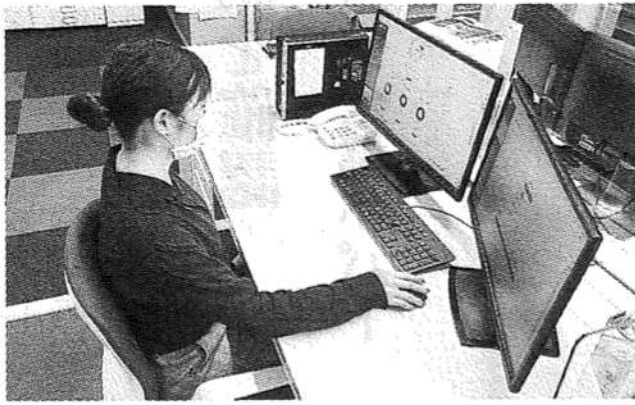


環境負荷が少ない製品の開発を推進

二酸化炭素を混入することによって、強度を増進するとともにセメント削減につながる取組を推進している。

専用のクラウドでCO2排出量把握

二酸化炭素排出量の可視化にも着手した。



クラウドサービスでCO2排出量を管理

サービス「アスゼロ」を導入。これによって、自社の事業活動において直接排出した二酸化炭素排出量Scope1、他社から供給された電気等の使用時に発生する間接的な排出量Scope2以外に、事業活動に関わる上流・下流のサプライチェーン排出量Scope3の把握が容易になる。製品・サービス単位の二酸化炭素排出量や月、年単位での管理も可能となり、情報共有が図られることから、取組の一層の推進に期待がかかる。

一連の取組について、山下弘純副社長は「脱炭素に取り組むことは、企業の責務。低炭素製品の開発を推し進めるとともに社内全体の意識統一を図り、着実にしっかりと取り組んでいきたい」と意気込む。